

今こそ、学祖・西園寺公望に学ぶ

～周年記念シンポジウム開催報告～

8月31日(日)、立命館創始155年・学園創立125周年を記念したシンポジウム「強い国にならなくてもいい、尊敬される国 日本になるべき—西園寺公望がみた未来—」が、東京・ステーションコンファレンス東京とオンラインにてハイブリッド開催されました。

当日は、NHK・BS「英雄たちの選択」などでも知られる磯田道史先生、元外務事務次官の藪中三十二先生、そして西園寺公望の御曾孫である西園寺裕夫先生をお迎えし、立命館大学文学部特命教授の本郷真紹先生がコーディネーターを務めました。

歴史・外交・教育という多角的な視点から、西園寺公望が目指した“日本の未来像”について語り合う、非常に密度の濃い内容となりました。参加者は1,590名、参加者アンケート結果による満足度は実に93.4%。西園寺公望は、立命館の学祖であり、政治家・外交官としても大きな足跡を残した人物です。その理念や姿勢は、変化の大きい現代社会において、私たちが働くうえでも多くの示唆を与えてくれます。今後、アーカイブ映像も公開予定です。この機会に改めて、立命館のルーツに触れてみてはいかがでしょうか。

写真:(上段)会場の様子 (下段左)本郷真紹先生 (下段右)森島理事



パネリストが語る西園寺公望 その一部をご紹介します!

藪中三十二 先生

バランス感覚を有した政治家だったと思う。外交においても同様に、日英同盟を基盤としながら、フランス、ロシア、アメリカとも良好な関係を構築した。そこには「世界の中の日本」でなければならぬというポリシーが一貫して流れていると感じた。



磯田道史 先生

国同士の関係というものは本来平らなものだ。国内と国外で上下をつけるような思想を広める内容が教育勅語の中に含まれていたから、補足するために作ったのが第二教育勅語(草案)である。これはもう最後の一手だ、西園寺の。見事だと思う、私は。



西園寺裕夫 先生

右であろうが左であろうが極端な考え方や行動というものは生理的に受けつかなかったのだと思う。彼の生き方を見ていて私が思うのは、彼の軸となる価値観は「中庸」ということだったと思う。「中庸の精神」「中庸の徳」を非常に大切にしていた。



各種 SNS



立命館 史資料センター ホームページ
<https://www.ritsumeai.ac.jp/archives>



公式Facebook History Club「and R」
<https://www.facebook.com/historyritsumeikan>



公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@user-RitsumeikanArchiveCenter>

本ニュースレターは、学園職員の方を対象に、少しでも学園の歴史に関心をもっていただくことを目的として発行した「インナーコミュニケーション」紙です。業務上「昔の立命館」のことを「知りたい」「気になる」とお感じになったら、ホームページやフェイスブックなども是非ご覧ください。または直接史資料センターにお問い合わせください。

清新 | 立命館 史資料センター ニュースレター 第6号/
立命館創始155年・学園創立125周年記念

発行日: 2025年12月1日 / 200部

編集発行: 立命館 史資料センターオフィス

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学 西園寺記念館
TEL. 075-465-8209 FAX. 075-465-7859

ニュースレター
Newsletter

第6号

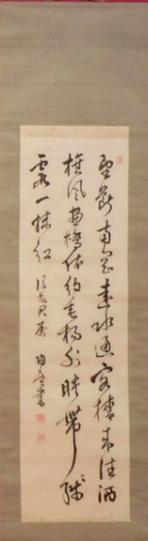
Futurize.
立命館
RITSUMEIKAN ANNIVERSARY

立命館
史資料
センター

RITSUMEIKAN
ARCHIVES CENTER

立命館創始155年・学園創立125周年記念号

私たちは何なのか。
どこから来て
どこへ行くのか。
をわかりやすく



来場者数 3,125名！ みなさまお越しいただき、 ありがとうございました。

東京駅の前、丸の内OAZOにある丸善4Fで
9月25日(木)～10月6日(月)の期間開催された
学祖・西園寺公望の展覧会は、各界の要人から、
在校生や校友、職員、西園寺公望のファンという中学生まで、
幅広い方々にお越しいただきました。
丸善のギャラリー担当の方曰く「限定的なテーマを扱った
企画展としては、異例の来場者数」となりました。

展覧会に お寄せいただいた感想

翌日に国際会議への
出席を控えていたので
「世界中の日本」というポリシーの意義と
限界について大変参考になりました。

自分の母校の成り立ちを
久々に学ぶことができました。
有意義な時間ありがとうございました。

西園寺の人となりや立命館の歴史だけでなく、
国際社会における日本や個人の生き方まで
考えられる充実した内容でした。
もっと長期間あるいは別会場でも
展示してほしいです。

西園寺公の思想や
教育方針などが学びになり
今後の自治活動や
共創活動に努めてまいります。

西園寺公の政治家としての業績は
これまでも知る機会があったが、
教育者としての功績、理念を改めて理解できた。
同時に東京で生まれ育った私には知識を
得にくい「立命館」大学の使命を理解できた。

中学生の娘が
西園寺公望ファンです。
もっと時間があれば
よく見れたのに。

校友として
アイデンティティが喚起されました。
素晴らしい企画をありがとう
ございました。

立命館大学の
学生として、
西園寺公望公の思想を
学べたことは大変
喜びがありました。

ゼミを担当してくださった
故山崎有恒先生のことを思い出しました。
よく立命館の歴史を
語ってくださいました。
立命館大学の卒業生であることを誇りに
今後とも社会に貢献できるよう
努めてまいります。

案内や解説を担当したスタッフ
からも、来場者の様子や反応に関
する報告が寄せられています。
ある校友からは、「なぜ西園寺
が立命館の学祖なのか、今回の
展示を見てよくわかりました」と
いう納得の声が。また、「就活で来
ていて、『立命館』の文字をたまた
ま見かけて、気になって立ち寄り
ました」という在校生の嬉しそうな
表情も印象的だったそうです。
来場者の多くは、資料をじっくり
読み込んだり、気になる資料やパ
ネルを撮影したりと、それぞれに
展示を深く味わっており、高い関
心度がうかがえました。

「西園寺公望の思想と立命館展」 in 東京

